

① 開業時の借入として、適切なものは？（金融）

- A 審査・手続が借入よりも簡単なので、全てリースで開業した。
リース会社のマージンが含まれているので退けた方がよいです
- B 金利がもったいないので、返済期間が短くても金利が低い方を選択した。
開業時は赤字なので資金繰りが金利より優先します。長い期間を選択すべきです
- C 開業時の資金繰りが心配なので、預金を担保に借入れをした。
結果は同じなのですが、メンタル的に預金を借入れもあるということをおすすめします
- D 銀行に団信加入を勧められたが、自分で生命保険に加入しているので付けなかった。
金利に保険料が含まれ、それも経費になるので団信加入必須です

解答
C

② 親から事業資金を借りた場合、贈与と認定されることがありますが、贈与と認定されないスキームとして正しいものは？（税金）

- A 他人ではないので、契約書を作らなかった。
他人ではないので、余計作成しておく必要があります（対税務署）
- B 親は生活に余裕があるので、返済はしなかった。
ある時払いの催促なしは贈与に認定されます
- C 親からの借入としても利息は支払う必要がある、但し金利は低くても良い。
金利支払は必須ではないです
- D 返済予定表を作成し、毎月返済することとした。
まさに金銭貸借の基本です

解答
D

③ 開業時に加入すべき保険を検討しています。下記の補償に優先順位をつける場合、正しいものは？（保険）

遺族補償 死亡した場合のリスク
所得補償 病気などで就業不能の際の借入返済、固定費支払のリスク
老後補償 仮に長生きした場合のリスク

- A ① 遺族補償 ② 所得補償 ③ 老後補償
- B ① 老後補償 ② 所得補償 ③ 遺族補償
- C ① 所得補償 ② 老後補償 ③ 遺族補償
- D ① 遺族補償 ② 老後補償 ③ 所得補償

解答
A

④ 税理士を選ぶ際に最も重要視することとして正しいものは？（経営）

- A 毎月の顧問料が安いこと。
- B 事業だけでなく、家族全体（個人的ライフスタイル）を見越したアドバイスをしてくれること。
- C 要望があるときだけ巡回に来てくれるため、仕事の妨げとならないこと。
- D すべての業種に精通した会計事務所であること。

解答
B

⑤ 開業する時期として、税務的に適切な時期は？（税金）

- A 年初
- B 年度の開始（4月）
- C 年末
- D 夏季休暇（内覧会に多くの子供たちを招くため）

解答
C

⑥ 開業前に掛かった費用のうち、開業費として認められないものは？（税金）

- A 勤務医時代に行った「開業セミナー」の費用。
- B 大学の先輩に開業相談した際の手土産。
- C 開業場所を選ぶ時に使った交通費。
- D 今後の診療所経営に不可欠な学会での認定医登録料。

個人的ライセンスの取得維持に係るもので開業と直接的な関係がないため

解答

D

⑦ 不動産購入時の説明として、正しいものは？（不動産）

- A 借り入れが出来ず契約できなかった場合、手付金が戻ってくることもある。
ローン条項をつけた場合
- B 仲介の不動産会社に支払う手数料は、最高で売買価格の5%+6万円である。
3%+6万円+消費税
- C 印紙を貼っていない契約書は、契約が無効である。

契約は有効ですが税法的に納税していないため2倍ペナルティがあります

- D 不動産の売買には必ず不動産仲介業者を入れなければならない。

売主と買主だけで成り立ちますがトラブルを避けるためには入れた方が賢明です

解答

A
